

3 植え付け

苗は3～4cm間隔で、根元が少し隠れる程度に土をかけ、溝の中に稲わらなどを入れて苗の乾燥と倒伏を防ぎます。



POINT

苗の大きさによって植える場所を分けると今後の管理がしやすくなります。

4 追肥・土寄せ

草体を大きく作ってから軟白に取りかかることが重要です。追肥は生育の前半に、土寄せは後半に重点を置くようにしましょう。

1回目

植えつけの約1か月後、畝の肩に肥料を施し、土と混ぜながら溝に落とす。土寄せはごく少量

溝の長さ1m当たり
油粕 100g
化成肥料 35g



2回目

1回目の約1か月後、1回目と同様に肥料を施し、土寄せする

溝の長さ1m当たり
油粕 100g
化成肥料 35g



3回目

2回目の約20日後、肥料を施し、緑葉の合わせ目の下まで土寄せする

溝の長さ1m当たり
化成肥料 35g



最終回(土寄せのみ)

3回目の約1か月後、収穫の30～40日前に、緑葉の合わせ目の上まで、しっかり土を寄せる

こちら側の土も寄せ上げる



5 収穫

軟白部を傷めないように鋤で土を掘り上げ、軟白部をよく出してから手で抜き取ります。



緑葉のつけ根まで軟白で、緑と白の境目がはっきりできているのが良品

1 苗づくり

種まきの1か月くらい前に畑全体に堆肥と石灰をばらまいて、15～20cmの深さに耕します。

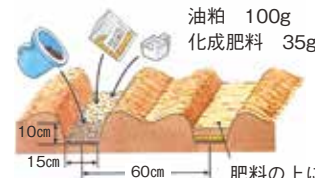
1㎡当たり
堆肥 500g
石灰 50g



2週間ほど前に元肥を入れて覆土します。種をまく前にまき溝の底面を平らにし、溝全体に種が行き渡るよう2cm間隔で丁寧にまきます。

元肥入れ

まき溝の長さ1m当たり
堆肥 400g
油粕 100g
化成肥料 35g



種まき

鋤を前後に動かして溝の底面をできるだけ平らにする



追肥

畝の長さ1m当たり
化成肥料 25g



苗の草丈が7～8cmの頃と、その1か月後の2回、各回片側ずつ溝をつくって肥料を施し、軽く土寄せする

POINT

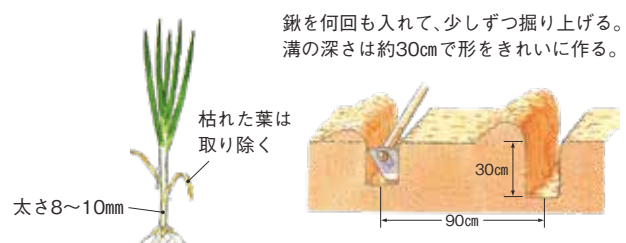
秋まき苗は、春先にとう立ちします。ネギ坊主は早目に摘み取りましょう！



2 植え溝掘り

苗を鉛筆よりやや太いくらいに仕上げて植え替えまします。畑は事前に耕さず、土がしまった状態で植え溝を掘ります。

鋤を何回も入れて、少しずつ掘り上げる。溝の深さは約30cmで形をきれいに作る。



枯れた葉は取り除く

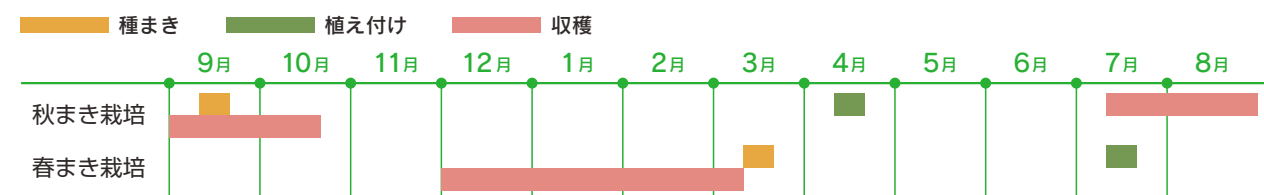
太さ8～10mm



苗床の時から、さび病などの発生に注意してください。ネギの葉面は、ろう物質に覆われていて薬剤が付きにくいので、必ず展着剤を混用してから散布しましょう。

川根営農経済センター 川畑 賢太郎

栽培カレンダー



病気の予防に「Zボルドー」

川根営農経済センターがおすすめします！



◎規格・価格

500g 990円(税込)
1kg 1,694円(税込)



◎特徴

野菜類や多くの作物に使える無機銅剤で、有効薬剤が少ない細菌性病害にも優れた予防効果を発揮します。日本農林規格(JAS)の有機農産物栽培でも使うことができる殺菌剤です。

◎使用方法

細菌病や黒腐病、軟腐病、べと病などに効果があります。500～1,000倍で希釈し、よくかき混ぜてから散布してください。農作物により散布方法を確認し、使用基準をしっかりとってください。

詳しい使用方法や使用量は、最寄りの営農経済センターへ

LINEでのオンライン
営農相談受付中!!



LINE友達登録はコチラから→

おすすめ
資材